

子どもたちの声が届く地域づくりを目指して【吉島東学区】

～「地域とともにある学校」を目指すコミュニティ・スクールとの連携～

【参加団体】小学校、学区社会福祉協議会、町内会、子ども会、老人クラブ連合会、女性会、体育協会、公衆衛生推進協議会等

地区の状況

令和5年度から、学校と地域が力を合わせ子どもたちのよりよい環境づくりを目指す「コミュニティスクール」（学校運営協議会）の取組が開始。吉島東学区でも、地域が「自分達も学校を運営する主体である」「地域の子どもたちを自分たちで育てていこう」という意識のもと、学校運営に関わろうという機運が高まっていた。一方で学校では、子どもたちが登下校時の見守り等で地域と関わる機会はあるものの、実際には地域のことをほとんど知らず、地域への理解や関心が薄いことが課題にあがっていた。

取組内容

子どもたちが、自分のふるさとなる場所に愛着をもち、これからの社会の問題を解決していく力を身につけてほしいと、6年生の総合的な学習の時間で「誰もが住みよい吉島東」をテーマに、地域の課題の発見・解決方法の検討に取り組むことに。この取組に社協も共感し、連携・協力していくことになった。

①子どもたちが、吉島東の課題や魅力の分析について考え、話し合う

「ゴミが多い」「街灯が少ない」「人口が減っている」などの課題のほか、「人が優しい」「公園など子供が遊べる場所がある」「海や川などの自然がある」などの魅力についての意見も出た。

②吉島東に住む人の思いや願いを聞き取り情報を集める

社協の役員達が小学校に出向き、各クラスの子ども達に「どんな地域活動をしているか」「地域の課題」「まちづくりへの思い」について子どもたちに語った。また、子どもたちは放課後などを利用して実際にまちへ出て実地調査を行った。



▲社協の役員が各クラスを訪問。子ども達にまちづくりへの思いを語ります



▲「ゴミが多い」⇒実際にゴミを集めてみよう！「街灯が少ない」⇒事故が多い場所を交番で聞いてみよう！自分達で足を運んで調査。



③課題に対する対策や、もっと住みよい街にするための取組や自分達にできることを考える



地域で集めた
ごみを分析
しよう



他の市町の
まちづくりの取組
を調べてみよう！

④自分たちがまとめた意見・考えた企画を地域の人達に発表する



▲「笑顔あふれるまちを目指してお祭りを開催」「ポスターコンクールで魅力を発信をして住む人を増やそう！」「ゲーム感覚でゴミを集める企画をしては？」子どもたちならではの発想とアイデアを聞き、地域の皆さんも「是非実現したい！」と盛り上がりました。

活動による効果

- 子どもたちは、学習を通じて、まちの歴史や地域の人たちの思いを知り「吉島東の歴史についてもっと皆に知ってほしい」「まちの魅力を伝えていきたい」との思いがうまれシビックプライドを醸成することができた。
- 学校では、今後他学年でも「総合的な学習の時間」にて地域について学ぶカリキュラムを検討。子どもたちが考え提案するだけでなく、実践的な取組へ繋げていきたいとの思いがある。
- 社協としても、子どもたちに「自分たちの提案で地域が変わっていく」実感を持ってもらうことで、主体的に地域と関われるようになり、地域に愛着をもち、いずれ故郷である吉島東に住みたい、と思ってもらうため、子どもたちの提案を実際に地域で実現していくことを検討している。